

DOCTRINES OF GRACE 恵みの教義

聖書は、栄光に満ちた三位一体の神が全ての源、始まりであり終わりであり、全てを御心により統治していると述べています。神のこの世での目的の中心は、罪人を救う事により自身の栄光を現す事です(ヨハネ17:1-26)。その目的に向けて、神の計り知れない恵みと栄光を示すため、神が主権者として救われる者達を選ばれると私達は信じています(エペソ1:3-6,ローマ9:11)。神の主権者としての恵みによる救いは私達を謙らせ、感謝で満たし、神を礼拝し全ての国々に神の恵みを分かち合いたいという思いへ駆り立てます。恵みの教義を信じながら他の人達に恵み深くないというのは私達の信じている事は異なり、大きな矛盾だと考えています。そのため、私達はただ神学的に明確であるだけでなく、悔い改めた“罪人のかしら”としての模範となる事を求めています。

GOSPEL-CENTERED DOCTRINE & PREACHING 福音中心の教義と説教

私達は、福音-神のイエス・キリストを通した救いという良い知らせ-が贖いの働きの頂点であり(エペソ1:9-12)、聖書の中心であり(ルカ24:44-47)、信仰と命、そして証に必要不可欠なメッセージであると信じています(1コリント15:3-11)。私達は福音を伝え、福音を歌い、福音を祈り、福音の真理に生き、福音の上に教会を建て上げる事に従事しています(2テモテ4:2;コロサイ3:16;マタイ16:18)。私達の究極の希望は、私達の計画や労働ではなく、イエスの完全な命、私達の身代わりとしての死、勝利の復活、栄光ある再臨にあります。福音はキリスト教への入り口ではなく、人生の全ての側面において成長させるものだと思っています(テトス2:11-14)。

CONTINUATIONIST PNEUMATOLOGY 継続した聖霊論

ペンテコステの日に聖霊が注がれて以来、神が神の民と共にいるという目的は新しい展開を迎えました。私達は全ての信者が聖霊に満たされ続けるよう命じられ(エペソ5:18)、教会を建て上げる事やこの世での様々な宣教活動における超自然的な力を含めた、クリスチャンとしての生活と証人として生きる力を与えられると信じています(使徒1:8;ガラテヤ5:16-18;1コリント12:4-7)。私達は賜物が乱用されている事を真剣に捉え、重要でない問題のために分裂する事よりも”さらに勝る道”としてお互いに愛し合い一致する事を求めています(1コリント13)。私達は神の臨在の広がり全ての場所に求めています。つまり、私達の人生、教会、国々でキリストが讃えられる事を。(詩篇105:4;1コリント14:1;エペソ2:22)。



| DOCTRINAL DISTINCTIVES |

COMPLEMENTARIAN LEADERSHIP IN THE HOME AND IN THE CHURCH 家庭と教会における補完性リーダーシップ

私達は男性も女性も神に似せて造られ、神の目には平等な尊厳と価値を持った者であるとともに、家庭や教会の中では異なる補完性の役割を与えられていると信じています。これらの役割は神を異なった表現で反映しているため、喜びと信仰によってそれらを求めるべきです。神に贖われた共同体として、教会は文化の反感や罪による歪みと戦いながら、この補完性を祝福する責任があります。

ELDER-RULED/ ELDER-LED CHURCH

長老による統治と長老による導き

イエスキリストは教会のかしらであり、長老(又は牧師)に自身の権威の元に教会を統治し導く役割を与えられました(コロサイ1:18;エペソ4:11;テトス1:5)。私達は性質と賜物の両面において認められた男性が、長老(ギリシャ語でプレスブテロス)としてキリストの権威の元で神の民を牧会するべきであると信じています。教会の健全さは、その教会の長老の健全さに大きく依存するため、私達は長老を強め、祈りながら新しい長老を探し求め、訓練します。

CHURCH PLANTING, GLOBAL MISSIONS AND RACIAL DIVERSITY

教会開拓、国際的宣教活動と人種の多様性

私たちの福音中心主義は福音を個人的に大切にするだけでなく、その喜びの延長として他人にも分かち合う事を必然的に伴います。復活されたキリストは教会に全ての国々で弟子を作るよう命じられました(マタイ28:18-20)。私達はこの命令は全ての信者(弟子)に適用され、教会開拓を第一の方法とし、それにより福音が延べ伝えられ、改宗した者たちが弟子となり共同体を建て上げていくと信じています(使徒12:21-47;14:23)。私達はこの使命を、聖霊に寄り頼みつつ熱心に追い求め、福音が教会開拓を通して東京、日本、世界中に広がる事により神の栄光が全ての国、言語、人々、国々の中で讃えられる事を願っています(黙示録7:9-12)。イエスが十字架にかかり、自身を贖いのためのいけにえとされた事により人種の壁は無くなり、私達はキリストにあって一つであるという人種の多様性を大切にしています(コロサイ3:11,エペソ12:13,1コリント12:13,ガラテヤ3:28)。



| DOCTRINAL DISTINCTIVES |

UNITED IN FELLOWSHIP AND MISSION 交わりと使命における一致

私達はイエスが祈った神の民の一致が、信者や教会の中で見られるべきだと信じています。実際に、新約聖書の中では初代教会同士の相互依存について述べています(ヨハネ17:20-21;使徒16:4-5;1コリント11:16;ガラテヤ2:7-10)。私達は東京や日本、世界において、初代教会と同様に福音中心主義の他の教会と、交わりと使命において相互依存関係を持つ事を求めています。このアプローチは私達が都市における福音の広がり祈る中で、教会が部族中心主義になる事から守り、王国中心主義になるよう励まします。このように同様な使命を持つ教会との一致を求める事は、教義的にも民俗的にも教会を守ることに繋がり、近隣や都市に影響を与えていく中で、個々の教会以上の働きを行う事ができます。福音により、私達は他の福音中心主義の教会と共にキリストによる一致を持ち、キリストとその王国のために使命を果たしていく事ができます。

INAUGURATED ESCHATOLOGY 開始された終末論

イエスは肉体を取られた地上での宣教活動において神の王国を発足され、今日ではその働きをイエスの体である教会を聖霊を通して継続しています。私達は「すでに、しかしまだ」である神の王国について、千年王国に対する様々な考え方が存在する事を認識しています。私達の教会では「歴史的前千年王国(後患難時代千年王国)説」に同意しています。私達と異なる考え方の人達とも敬意を持って交流しつつ、何よりもキリストが再臨するまではクリスチャンが一致して福音を述べ伝えるべきだと考えています。私達みんながキリストをかしらとして御元へと来る時、教会が将来実現する現実を先に味わうような場所になると信じています。